

# 英語教育における物語の扱い方

— 中学校新学習指導要領に沿って —

小野 章

(2021年10月5日受理)

Ways of Dealing with Stories in an EFL Classroom  
— According to the new Course of Study for junior high schools —

Akira Ono

**Abstract:** The Course of Study for Junior High Schools was revised in 2017 and has been implemented since April 2021. With this revision in mind, this paper aims to show the ways in which stories can be dealt with in an EFL classroom. The research questions to be answered are as follows:

RQ 1: What objectives and teaching contents can be identified as relevant to stories in the new Course of Study?

RQ 2: How can stories be dealt with according to the objectives and teaching contents identified in RQ 1?

The answer to RQ 1 is to understand the general outline of a story, that is, (1) to arrange information in chronological order, (2) to follow the actions and emotions of characters, and (3) to summarize the whole story. In order to answer RQ 2, a textbook version (*Sunshine English Course 3* for third-year junior high school students) of *After Twenty Years* by O. Henry was analyzed, and the details of the analysis are shown in the three tables of this paper.

Key words: The Course of Study, Junior High School, Story

キーワード：中学校学習指導要領，英語，物語

## 1 背景と研究課題

### 1-1 背景

平成29年3月31日に改訂された中学校学習指導要領は、既に令和3年度から全面的に実施されている。学習指導要領が改訂された今、本論では新学習指導要領に沿った物語の扱い方を考えておきたい<sup>1</sup>。

新学習指導要領には、「説明文」や「意見文」や「対話文」等、さまざまなテキスト・タイプへの言及が見られる。それらの中でも特に「物語」に注目したのは、「物語」もその一部である文学が、他のテキスト・タイプに比べ、日本の英語教育ではあまり研究されてこなかったからである。例えば、英語教育学関連の学会としては日本最大規模の全国英語教育学会において、

中学校学習指導要領が改定されたのと同じ年（平成29年）に開催された全国大会（島根研究大会）では計228件の口頭発表が行われたが<sup>2</sup>、文学関連のものはわずか5件（約2.2%）であった<sup>2</sup>。

日本の英語教育で文学が研究対象となることはあまりない一方で、新学習指導要領も参照しているCEFRの「自己評価表」(Self-assessment grid)では、B2レベル以上のReadingにおいて「文学的な」(literary)テキストの理解への言及が見られる（B2では“literary prose”, C1では“literary texts”, C2では“literary works”<sup>3</sup>）。また、新学習指導要領にも「物語」は言及されており、令和3年度から使用されている新しい中学校英語教科書にも物語は掲載されている。日本の英語教育において物語をどう扱うべきかを考察しておく必要があると

考える。

る。

## 1-2 二つの研究課題

本論の研究課題は次の二つである。

研究課題1：中学校の新学習指導要領を分析し、物語に関わる目標や指導内容を抽出する。

研究課題2：研究課題1で抽出された目標や指導内容に沿って、物語を実際に扱ってみる。

研究課題1において抽出対象を「目標や指導内容」にしたのは、新学習指導要領の「外国語科」の「英語」が、「目標」と「内容」と「指導計画と内容の取扱い」から成り立っているからである。また、研究課題2では、中学校英語教科書に実際に掲載された物語を取り上げ、誌面上ではあるが物語の扱い方の例を示したい。

## 2 研究課題1への取り組み

### 2-1 研究課題1「物語に関わる目標」の抽出

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』（以下、『新指導要領解説』）の全103ページ中、「物語」の文言が含まれているページはp.21, p.58, p.59, p.60, p.98の計5ページである。うち、p.21のみが「目標」に関わっている。英語の目標は、五領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）ごとに設定されている。各領域ともア～ウの三つの目標が定められており、「物語」は「読むこと」のイの目標の解説中に言及されている。イの目標と、その解説のうち物語に関わる部分のみを引用する。

イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

「概要を捉える」とは、例えば物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることである。（文部科学省、2017：20-21）

この引用から、研究課題1のうち「物語に関わる目標」は次のように抽出できる。

物語に関わる目標：物語を読んで、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど概要を捉え

### 2-2 研究課題1「物語に関わる指導内容」の抽出

次に、「物語に関わる指導内容」を抽出したい。『新指導要領解説』の中で「物語」の文言が含まれているp.58, p.59, p.60は「内容」の「言語活動に関する事項」に関わるものである。同事項では五領域ごとに言語活動が紹介されており、「物語」は「読むこと」の（ア）と（ウ）の活動の解説中に言及されている。

まずは（ア）の活動と、その解説のうち物語に関わる部分のみを引用する。

（ア）書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。

〔黙読の指導の際〕、文章全体を通してどのように物語や論述が進んでいるのか、どのように話をまとめているのか等の文章の構成を意識させることが大切である。

〔音読では〕、説明文、意見文、感想文、対話文、物語などの意味内容を正しく理解し、その意味内容にふさわしく音声化する必要がある。（文部科学省、2017：58）

黙読で重視されているのは、物語の「文章の構成」を生徒に意識させることである。物語の文章の構成が何であるかについての詳しい説明は無いが、恐らく起承転結のようなものを指していると考えられる<sup>4</sup>。となると、同構成は、「物語に関わる目標」として上で既に抽出した「全体のあらすじなど（の）概要」とほぼ同義であると言えよう。あらすじを捉えるためには、クライマックスやエンディング等、物語全体の文章構成を考慮する必要があるからである。

（ア）の活動のうち音読で重視されているのは、物語の意味内容の正しい理解に基づいた音声化である。留意すべきは、この「意味内容」が物語の字義のみを指すのではないということである。「意味内容」という文言は『新指導要領解説』で5回使用されている。うち2回を引用する。

（コミュニケーションで）伝えられる意味内容に留意し、生き生きとした言語活動を展開することが必要である。（文部科学省、2017：84）

例文を提示する際は、十分な量を確保することに努めるだけでなく、生徒が自分自身との関連性を感じられるような意味内容のある例文を示して

いくことが大切である。(文部科学省, 2017: 94)

「生き生きとした言語活動」や「生徒が自分自身との関連性を感じられる」といったことに「意味内容」が結びつけられていることが分かる。よって、物語の「意味内容にふさわしく音声化する」とは、具体的には、物語に書かれていることを生徒が自分自身に関連付けながら、生き生きと音読することだと考えられる。そのためは、「物語に関わる目標」として上で既に抽出した「登場人物の心情」を読み取って、感情移入をしながら音読することが重要となる。

次に(ウ)の活動と、その解説のうち物語に関わる部分のみを引用する。

(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。

この事項では、第2の1(2)「読むこと」イ「日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」に関連し、「日常的话题」に関する「短い説明やエッセイ、物語など」の文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動を示している。(文部科学省, 2017: 59-60)

この引用にある「第2の1(2)「読むこと」イ「日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」」は、上で「物語に関わる目標」を抽出する際に引用したものと同一である。つまり、上で『新指導要領解説』のp.21から抽出した目標を達成するための活動として「時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容などを把握したりする活動」がここでは紹介されている。ただし、この活動の「時系列に情報を整理」という部分は『新指導要領解説』p.21では触れられていなかった。

「読むこと」の(ア)と(ウ)の活動と、それらの解説の以上の分析から、研究課題1のうち「物語に関わる指導内容」は次のように抽出できよう。

物語に関わる指導内容：物語の黙読を通して、時系列に整理された情報、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど概要を捉える。また、登場人物の心情にあわせた音読をする。

「物語」の文言が含まれている最後のページ (p.98)

は、次の引用にあるように、「教材選定の観点」に関わっている。

「物語」は、世界各国に様々なものがあるが、選択に当たっては、生徒の発達の段階や興味・関心に応じたもの、様々な考え方が含まれているものなどを適切に取り上げることが考えられる。(文部科学省, 2017: 98)

教材選定の重要性は認めるものの、本論で設定された二つの研究課題とは直接的には関わりがないため、『新指導要領解説』p.98についての考察は行わない。

### 2-3 研究課題1への回答

中学校の新学習指導要領を分析し、2-1では「物語に関わる目標」を、2-2では「物語に関わる指導内容」を抽出した。それぞれを再掲する。

物語に関わる目標：物語を読んで、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど概要を捉える。

物語に関わる指導内容：物語の黙読を通して、時系列に整理された情報、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど概要を捉える。また、登場人物の心情にあわせた音読をする。

分析対象の新学習指導要領における「目標」と「内容」がそうであるように、そこから抽出された「目標」と「指導内容」も密接に関連し合っている。「目標」を達成するための「指導内容」であり、後者が前者のより詳細な記述となっている。抽出された「指導内容」が「目標」を包含するものとみなし、研究課題1(「中学校の新学習指導要領を分析し、物語に関わる目標や指導内容を抽出する。」)への回答を次の通りとする。

研究課題1への回答：物語の黙読を通して、時系列に整理された情報、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど概要を捉える。また、登場人物の心情にあわせた音読をする。

この回答中、黙読に触れている第一文目を簡略化すると、「物語の黙読を通して、A、B、Cなど概要を捉える」となる。つまり、黙読を通して行うべきことは概要を捉えることであって、A、B、Cはいずれも概要の例として挙げられている。本論では、物語の概要を捉えることをこの後すぐ実践するが、それ(概要把

握)は、(1)時系列に情報を整理したり、(2)登場人物の行動や心情の変化を捉えたり、(3)全体のあらすじを把握したりすることによって達成されるとする。

### 3 研究課題2への取り組み

#### 3-1 本論で扱う物語

上で抽出された「物語に関わる目標や指導内容」(=研究課題1への回答)に沿って、物語の扱い方を具体的に示すことで研究課題2に取り組みたい。取り上げる物語はアメリカの作家O. Henryが書いた*After Twenty Years*である。この物語を平易な英語に書き換えたものが、平成27年に文部科学省から検定を受けた中学校英語教科書*Sunshine English Course 3*にExtensive Readingとして掲載されている(以下、教科書版ATY)。同物語を扱うことにしたのは、この作品に限らずO. Henryによる作品が日本の英語教科書によく掲載されること<sup>5</sup>、話の展開が分かり易いこと、話にオチがあって生徒の関心を引きやすいこと等が理由として挙げられる。

教科書版ATYは教科書の4ページを占めており、各ページには物語本文に加え、発問2問、語句説明、挿絵1枚が掲載されている。また、最初のページには物語の紹介文が日本語で付されている。次に、教科書版ATYをページの区切りごとに1行空けながら引用するが、語句説明と挿絵は割愛する。なお、引用中の行数は教科書のものとは一致しない。

アメリカの小説家オー・ヘンリー(1862-1910)の短編小説です。これは20年前の約束を果たしに西部からニューヨークへ出てきた男の物語です。(総語数397語)

1 On a cold night in New York City, a policeman  
2 was walking along a dark street. He saw a man  
3 near the door of a store and walked up to him.

4 "It's all right, officer," the man said. "I'm just  
5 waiting for a friend. Twenty years ago we  
6 promised to meet here again tonight."

7 Then the man struck a match to smoke. The  
8 light showed his face. He went on talking. "We  
9 said goodbye here. I started for the West to  
10 make my fortune. I was eighteen."

11 "Very interesting!" said the policeman. "I hope  
12 your friend will come around all right." Then he  
13 went away.

Q1. Where was the man standing when the policeman saw him on a dark street?

Q2. Why was the man there?

14 About twenty minutes later, a tall man came  
15 from across the street. His face was not clear in  
16 the dark.

17 "Is that you, Bob?" the tall man asked.

18 "Is that you, Jimmy?" cried the man by the  
19 door. Each man took the other man's hand.

20 "You've changed a lot, Jimmy!"

21 "Oh, I grew a bit after I was twenty," said the  
22 tall man.

23 "Are you doing well in New York, Jimmy?"

24 "Yes. I work for the city. Let's go to a place  
25 that I know well and have a talk about old  
26 times."

27 The two men began to walk along the dark  
28 street.

Q1. When the two men met, could Bob see the other man clearly?

Q2. Where was the tall man taking Bob?

29 "Were you successful in the West, Bob?"  
30 asked the tall man.

31 "Yes, I was!" answered Bob. And he began to  
32 tell the story of his life in the West.

33 At a corner of the street, there was a  
34 drugstore. Its lights were on. When the two  
35 men came near the store, they stopped and  
36 looked at each other's faces.

37 "You're not Jimmy!" said Bob. "Twenty years  
38 is a long time, but it can't change a man's face  
39 that much."

40 "It sometimes changes a good man into a bad  
41 man," said the tall man.

Q1. What did Bob talk about with the tall man?

Q2. What did Bob say when he looked at the tall man in the light of the drugstore?

42 "You're wanted by the Chicago police. You've  
43 been under arrest for ten minutes, Bob. Now,  
44 before we go, here's a note I was asked to hand  
45 you. It's from Jimmy," said the tall man.

46 When Bob finished reading the note, his  
47 hands tremble a little.

48 Bob,  
 49 I was on time at the place we decided. I  
 50 was happy to find you there. But when you  
 51 struck the match to smoke, I saw the face of  
 52 the man wanted in Chicago. Somehow I  
 53 couldn't do it myself, so I sent another  
 54 policeman to bring you in.  
 55 Jimmy

- Q1. What did the tall man hand to Bob?  
 Q2. When did Jimmy understand clearly that Bob was a wanted man?

この教科書版 *ATY* の黙読を通して、物語の概要把握を実践したい。より具体的には、前述の通り、(1) 時系列に情報を整理し、(2) 登場人物の行動や心情の変化を捉え、(3) 全体のあらすじを把握することになる。なお、(1) (2) (3) とともに、実践の成果は

日本語で示すことにした。

### 3-2 時系列に整理された情報

情報を時系列に整理する際、物語の「時系列」には少なくとも二種類のものが存在することに留意する必要がある。一つ目は、出だしからエンディングに至る物語の進行を時系列とみなす場合である。二つ目は、物語に含まれる情報の元となる出来事が発生した順番を時系列とみなす場合であり、この順番は一つ目の物語の進行とは必ずしも一致しない。これら二つの時系列を便宜的にそれぞれ時系列1、時系列2と呼び、二つの時系列別に教科書版 *ATY* を整理したい。なお、教科書のページ区切りに従って物語を第一部～第四部に四分割し、時系列1では第一部～第四部の順番に情報を整理する。また、時系列2において整理された情報には、その情報が第一部～第四部のどこに含まれているかを付記する。

表1：二種類の時系列に整理された情報

物語の進行に沿って整理された情報（時系列1）	出来事の発生順に整理された情報（時系列2）
第一部：ある寒い夜、警官が、西部から来た男と店先で話をした後、その場を離れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18歳のボブとジミーは、ニューヨークのある店先で、20年後の再会を誓う。(第一部)</li> <li>・20年のうちにボブはシカゴで成功を収め、ジミーはニューヨークで警官となる。(第一、三、四部)</li> <li>・約束通り二人は再会を果たすものの、実際に会っている間にボブはジミーを認識しない。(第一部)</li> <li>・ジミーが呼んだ別の警官にボブは逮捕される。ボブはジミーからのメモを読む。(第二、三、四部)</li> </ul>
第二部：同じ店先に背の高い男が現れ、西部から来た男（ボブ）と話をする。	
第三部：背の高い男がジミーではないことにボブは気付く。	
第四部：ボブはジミーからのメモを読む。	

この表から分かるように、時系列の違いによって整理される情報もかなり異なってくる。

### 3-3 登場人物の行動や心情の変化

3人の登場人物（警官ジミー、ボブ、背の高い男）の行動と心情を、第一部～第四部ごとに表2にまとめた。表中において下線が引かれた箇所は、本文に明記はされていないものの、本文から読み取れる行動や心情である。なお、行動や心情が本文中に書かれておらず、かつ読み取ることも不可能な場合は、表中の欄に斜線を引いた。また、表中にある行数は、上に引用し

た教科書版 *ATY* 本文の行数を指している。

行動は1箇所だけに、心情は9箇所全てに下線が引かれている。このことから、教科書版 *ATY* の場合、心情は明記されていないことが分かる。もっとも、心情が明記されているか否かは物語次第であって、教科書版 *ATY* とは対照的に心情が書き込まれている物語もあろう。また、行動にせよ、心情にせよ、明記されていないことを読み取る場合、読み取る内容は読者によって異なり得ることから、表2とは違う行動や心情の読み取りも可能である。

表2：登場人物の行動や心情の変化

	警官ジミーの行動と心情	ボブの行動と心情	背の高い男の行動と心情
第一部	<p>行動</p> <p>寒い夜にニューヨークの街をパトロール中(？)、ある店先で男を見かけ、近寄り、男の話を聞きながら、顔を確認する。</p>	<p>行動</p> <p>警官に自ら話し掛け、なぜ夜中に店先に居るのかを説明する。</p>	
	<p>心情</p> <p>1～2行目：約束をボブにも果たして欲しい。でも、お尋ね者がボブに似ている。実際に会って、人違いであることを確かめよう。仮に、お尋ね者とボブが同一人物ならば、警官である自分は逮捕せざるを得なくなる。ボブよ、来るな！</p> <p>7～8行目：残念ながら、ボブはお尋ね者だった。</p> <p>11～13行目：逮捕すべきだけれども、できない。</p>	<p>心情</p> <p>警官が近寄って来た。怪しまれないために、自分から話し掛けて、ちゃんとした用事で夜の店先に居ることを説明してやろう。</p>	
第二部	<p>行動</p> <p>自分の代わりにボブを逮捕してくれる警官を探す。ボブにメモを書く。</p>	<p>行動</p> <p>店先に現れた背の高い男をジミーだと思い込み、ニューヨークでの暮らしぶりを尋ねたりする。</p>	<p>行動</p> <p>ジミーを装いボブに話し掛け、自分がよく知っているある場所で昔の話をしようと持ち掛ける。</p>
	<p>心情</p> <p>自分では逮捕できなかった。しかし、このまま見逃すわけにはいかない。別の警官を呼んでこよう。でも、その間にボブが居なくなったらどうなるか。自分は警官失格となるが、ボブは捕まらずに済むかも。</p>	<p>心情</p> <p>ジミーも約束を果たしに来てくれて良かった！ジミーは随分変わったけど、ニューヨークではうまくやっているのだろうか。</p>	<p>心情</p> <p>警官ジミーが言っていたように、店先にお尋ね者のボブが居る。自分がジミーではないことがばれても、ボブが逃げられないように、手を握っておこう。</p>
第三部		<p>行動</p> <p>西部における自分の成功を語っている最中に、背の高い男が実はジミーではないことに気付く。</p>	<p>行動</p> <p>ジミーではないことがボブにばれる。</p>
		<p>心情</p> <p>西部での成功をジミーに自慢してやろう。</p>	<p>心情</p> <p>取り調べとして、ボブの話をしっかり聞いておこう。</p>
第四部	<p>行動</p> <p>メモを通し、自分も約束を果たしたこと、ボブに会えて嬉しかったこと、なぜか自分の手でボブを逮捕することはできなかったこと等をボブに伝える。</p>	<p>行動</p> <p>自分が背の高い男に逮捕されていたことを知る。ジミーが書いたメモを渡され、メモの内容から先ほど会った警官がまさにジミーであったことを知る。</p>	<p>行動</p> <p>ボブをシカゴ警察が探していること、ボブが10分前に自分に逮捕されたことを伝えた後、ジミーからのメモをボブに渡す。</p>
	<p>心情</p> <p>ボブよ、悪く思わないで欲しい。自分とて辛いのだ。罪を償って、正々堂々と再会しようではないか。</p>	<p>心情</p> <p>警官であるジミーに大変な思いをさせしまい申し訳ない。自分の人生が恥ずかしい。</p>	

### 3-4 全体のあらすじ

同じ物語のあらすじも、あらすじの作成者によって異なる。というのも、どの登場人物に特に感情移入するのか、物語からどのようなメッセージを受け取るのか等は作成者次第だからである。また、上で扱った二種類の時系列のどちらを参考にするかによっても全体のあらすじは異なってくる。次に示す全体のあらすじは、上の時系列1に沿ったものであり、ゆえに上と同じく第一部～第四部に区切られている。

表3：全体のあらすじ

第一部	寒い夜、警官がニューヨークの街を歩いていると、ある店の戸口に男を見かけました。20年前に交わした旧友との再会の約束を果たしに西部から来たというその男の説明を聞いた後、警官はその場を去りました。
第二部	約20分後に背の高い男が現れ、戸口の男がボブであることを確認しました。ボブは背の高い男がジミーであると思い、20年ぶりの再会を喜びました。
第三部	西部での成功を歩きながら語っている最中にボブは、薬屋の明かりの所で背の高い男がジミーではないことに気がきました。
第四部	背の高い男は実は警官で、お尋ね者となっているボブを本物のジミーに代わって逮捕した後、ジミーが書いたメモをボブに渡しました。そのメモには、ボブに会えてうれしかったこと、自分でボブを逮捕することはできなかったこと、などが書かれていました。

### 3-5 研究課題2への回答

研究課題1において抽出された目標や指導内容は次の通りであった：「物語の黙読を通して、時系列に整理された情報、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど概要を捉える。また、登場人物の心情にあわせた音読をする。」この目標や指導内容に沿って「物語を実際に扱ってみる」というのが研究課題2であった。この研究課題2への回答は、教科書版ATYを扱う中で作成した上の表1～3そのものである。なお、「登場人物の心情にあわせた音読をする」については、表2の心情を参照しながら本文を音読することが考えられる。

## 4 留意点及び今後の課題

本論では、中学校新学習指導要領に沿った物語の扱いを例示した。もっとも、扱いを実践したのみであって、実践につながる指導の在り方を論じたわけでない。例えば、登場人物の行動や心情を生徒に捉えさせるために、表2のようなマトリックスを用いた指導が本当に効果的であるかは今後検証する必要がある。また、表1～3を通じて示した実践は、実践者によって異なり得る。例えば、前述のように、物語全体のあらすじは、あらすじの作成者によって異なり得る。実践におけるこのようなばらつきは、そのまま評価の難しさにつながる。正解が一つではない問題に対しどのような評価を行うのかについても今後検討する必要がある。

本論では、敢えて中学校新学習指導要領に沿いつつ、物語の扱い方を示した。無論、学習指導要領として「完全」ではなく、その証左に同要領も約10年ごとに改訂される。つまり、本論が依拠した『新指導要領解説』中の目標や指導内容等も完全ではないということになる。学習指導要領には言及がないものの、物語を扱う上で生徒の英語力向上に資する要素が他にもあるのではあるまいか。この要素が何であるかを見極める必要がある。

\*本論は、科研費助成事業の学術研究助成基金助成金(2018年度基盤研究(C))課題番号18K00374「文学の原作とそのリトルド版との比較に基づいた英語学習法及び教材の開発」(研究代表者：小野 章)の補助を受けて執筆された。

### 【注】

- 1 誤解を避けるために付記すると、本論は新学習指導要領に沿って物語を扱うべきだと主張しているわけではない。同要領に沿って物語を扱うとどのようになるのかを示したいだけである。
- 2 全国英語教育学会発行の鳥根研究大会予稿集(『第43回全国英語教育学会鳥根研究大会発表予稿集』)において「自由研究発表・事例報告」として掲載されている口頭発表の予稿計228件の発表タイトルを元に調査した。
- 3 文部科学省が令和元年度に行った「公立中学校等における英語教育実施状況調査」では、中3生1,001,980人中、CERR A1レベル相当以上を取得している(もしくは、A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる)生徒数は440,664人と、全体の約44%に留まっている(<https://www.mext.go.jp/>)

content/20200715-mxt\_kyoiku01-000008761\_5.pdf)。A1レベルにさえ到達していない中3生が過半数を占めているという現状にあって、B2レベル以上とされる文学テキストの理解を中学生に求めることについては反対意見もあろう。しかし、文学の一形態である「物語」は中学校の英語教科書に現に掲載されている。中学生の時から「物語」に触れ、文学的テキストを読みこなすための訓練をしておくことは、中学卒業後も続くことが予想される英語学習に資すると思われる。

- 4 『新指導要領解説』の他のページ (p.28) には、「事実や自分の考え」を書く際の「文章構成」の例として「導入—本論—結論」が挙げられている。
- 5 最近では、中学校新学習指導要領に沿って令和3年度から使用されている *Blue Sky English Course 3* に O. Henry の別の作品 (*The Last Leaf*) が掲載されている。

## 【参考文献】

- 小野章・中尾佳行・柿元麻理恵 (2016). 「O. Henry 作“After Twenty Years”の語り手と焦点化—英語教育における文学の可能性を求めて—」柳瀬陽介・西原貴之 (編著) 『言葉で広がる知性と感性の世界』溪水社.
- 全国英語教育学会 (2017). 『第43回全国英語教育学会鳥根研究大会発表予稿集』全国英語教育学会.
- 田尻悟郎 (監修) (2021). *Blue Sky English Course 3*. Osaka: Keirinkan.
- 松畑熙一 (監修) (2017). *Sunshine English Course 3*. Tokyo: Kairyudo.
- 文部科学省 (2018). 『中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語編』開隆堂.
- Henry, O. (1906). After twenty years. In G. Davenport (Ed.), *O. Henry: Selected stories* (pp. 24–27). New York: Penguin Books.